

平成30年度 第2回 静岡市立清水病院経営計画評価会議

1 日 時 平成31年1月17日(木) 15時00分から17時00分まで

2 場 所 静岡市立清水病院 新館3階 会議室

3 出席者 【委員】6名

藤井浩治病院長(会長)、杉浦信久事務局長、東野定律委員
河俣貴之委員、吉田敬哲委員、久保田法子委員

【事務局】7名

米津看護部長

宮城島管理看護科長、池田外来看護科長、水谷病棟看護科長、
良知病院総務課長、浦田病院施設課長、鈴木医事課長、
病院総務課 井柳企画経理係長、青木主査

4 会議録

司 会 只今より、平成30年度第2回静岡市立清水病院経営計画評価会議を開催します。

それでは、本日の資料を確認させていただきます。

(資料の確認)

よろしいでしょうか。まず、最初にお諮りいたしますが、静岡市では附属機関等の会議を原則公開することとなっておりますので、当評価会も傍聴希望者がいらっしゃる場合は、公開することとしてよいでしょうか。

(異議なし)

これよりこの会議の進行は、静岡市附属機関設置条例第6条3項の規定に基づき会長であります藤井病院長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

会 長 それでは、これからの進行を務めさせていただきます。議題(1)の「平成30年度経営計画の取組状況について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

総務課長 (静岡市立清水病院経営計画における計画値及び実績の推移)
(平成30年度取組中間状況)
(資料1及び資料2に基づいて説明)

会 長 今の説明について何か質問はございませんか。

東野委員 一般病棟の利用率について、上半期の実績は77.3%と年間目標の76.7%を上回っているが、下半期の見込みはどうか。

事務局長 清水病院の特徴として、冬場に患者数が伸びる傾向にあるので、利用率は上がると考えている。

東野委員 集中治療室の利用率が、上半期の実績が62.6%と年間目標の71.7%に届いていないが、昨年度の実績と比較してどうなっているか。

総務課長 集中治療室の昨年度の実績は68.9%であり、昨年度の実績と比較しても、利用率は下がっている。
集中治療室のベッド数は6床であるので、4床の利用で66%の利用率になる。

会 長 重症患者を受け入れるHCUとして稼働しているので、看護師1人で2床を見ることになるが、より重症になれば、看護師1人で1床を見ることになる。集中治療室における看護師の確保も重要となるなど、ベッドを利用する性質と患者数で、集中治療室の利用率は大きく変わってくる。

事務局長 マンパワーが大事な部署となっている。なお、1日あたりの患者数は、平成29年度は4.1人、平成30年度は12月末時点で3.5人であった。

河俣委員 医師数について、平成29年4月1日が72名であり、平成30年4月1日が70名であるので、昨年度から2名減っているのか。

総務課長 年度の途中で医師数が変わることはあり、平成29年度の場合は4月

半ばまで2名の医師が在職していた。

河俣委員 今後の医師の採用の見通しはどうか。

総務課長 経営計画においては75名が目標となっているが、目標に達することは難しい。1名でも増員ができればと考えている。

会 長 医局からは、診療科に医師の派遣を行うので、診療科が無くなると大きく医師数は減ることになる。

都市部においては医師も余剰が出始めている。ただし、余剰が出始めたから清水病院に医師が来るといところまでは来ていない。

都市部から清水病院に勤務するには、移動時間も長時間となり、勤務時間ではないが移動時間も含めて仕事をしている感覚になってしまい、特に週に1、2回の勤務となると都市部に住む医師を採用することは難しい。

以前の清水病院は、医師だけでなく看護師も少なかったが、ここ最近で増やすことができた。清水看護専門学校の定員が埋まり、卒業生が清水病院に勤務することで看護師が充足されてきた。

制度や学校の動きによっても人員は変わっていく。研修医も以前は清水病院に来なかったが、今は多くなってきており、今年度は5名在籍している。医師数も変わっていくことを期待している。

久保田委員 医師の男女比はどのようになっているか。

会 長 女性医師が多くても良いと思っているが、まだ清水病院では少ない。静岡市内では中心部に集中している。

久保田委員 LDRの導入をしており、診療科によっては女性医師に診てもらいたい患者も増えるにではないか。

会 長 泌尿器科でも女性医師の希望が多い診療科である。
産婦人科においては、常勤が1名、非常勤が1名在籍している。

総務課長 正規医師で5名、研修医で3名の女性医師がいる。

吉田委員 経営計画における計画値と実績に大きな差が生じており、差が大きく

なると、計画にあわせた予算設定を行っているならば予算が組めなくなるのではないか。

総務課長 計画に近い予算設定をおこなっている。年度当初においては、高い目標として計画にあわせた予算を設定しているが、現在の状況では、予算の達成が難しく、年度末に予算の補正を行っている。

一般会計の財政も苦しい状況が続いており、その中でも一般会計は清水病院に負担金と補助金を出している。負担金は市が負担すべきものであるが、補助金は収支均衡のために出しているもので、当初予算の段階で、一般会計も多大な補助金の予算を組むことができない。

事務局長 医療においては、制度改正が経営に大きく影響を与えるために、計画とどのように合わせるか難しく、将来の予測が難しい。

計画数値、予算、決算、それぞれが異なってしまうている。

当初予算においては、静岡市の財政的な面からも厳しめに設定しなければならない。

吉田委員 計画に届いていないと言われ続けることで、働いている人のモチベーションの低下に繋がらないようにしてもらいたい。

河俣委員 計画に実績が届かない、根本的な要因は何か。

事務局長 医師数が少ないことが根本的な原因である。

吉田委員 医師に対するメンタルケアはどのようにしているか。

総務課長 勤務時間外時間数が1,000時間を超える医師もいる。時間外が多い医師については、状況を上位職の医師に示すとともに、本人には産業医との面談希望を取っている。産業医との面談については、希望の有無も含めて上位職の医師に報告している。

事務局長 医師の時間外は、市内の他の病院と比較して、一人当たり20時間以上多い。

会 長 時間外は増えているが、ストレスチェック等での精神的な面の数値では、一般的な数値となっている。

- 事務局長 看護師、事務職が高く、ストレスを抱えている年代等も把握できるが、解決方法として良いものがなく、対応策をたてるのが難しい。
- 東野委員 働く環境を良くしていくことは、どこでも課題とされている。勤務時間が長いからストレスが高いわけではなく、コミュニケーションが円滑であるかが問題である。
- 吉田委員 東海地震における災害時における清水病院の位置付けはどのようになっているか。
- 総務課長 清水病院は災害拠点病院に位置付けられ、災害発生時には重症患者の受入れの中心となる。ヘリコプターの離発着についても、日本平運動公園における対応となるが用意している。一番の心配である津波については、県の第4次被害想定において、清水病院までは来ないとされている。
- 吉田委員 広報誌のShimizuにおいて、どのようにして、市民にアピールできるような内容にしているか。
- 総務課長 広報誌については、昨年度から自治会を通じて各組の回覧という形で実施を始めた。各号に統一感を持たせるようにレイアウトも検討している。市民にアピールできるように検討を重ねているが、アピールに向けて良い意見等を委員の皆様からもいただければと思う。
- 事務局長 多くの写真を使って、ビジュアル的に作っている。デザインについて、専門的な知識を持つ者を採用し、広報誌の作成を担当してもらっている。病院として広告を行うことには、大きな規制があるので対応には苦勞している。
- 会 長 ありがとうございます。他に意見等がないようであれば、(2)意見交換に移りたいと思います。
- (特になし)
- 会 長 それでは、最後に(3)その他ですが、事務局のほうで何かありますか。

事務局 (静岡市附属機関設置条例の改正について説明)

会 長 委員の皆さまから、何かございますでしょうか。

(特になし)

それでは、以上で議事を終わります。

本日も活発なご意見やご提言をいただきありがとうございました。

それでは、進行を事務局に返します。

司 会 皆様、長時間にわたりありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、清水病院経営計画評価会議を終了させていただきます。

本日は、お忙しい中、ご出席頂き誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。